

令和5年度第2回 富良野市環境審議会 議事録

日 時：令和6年3月27日（水）13時30分～15時15分

場 所：富良野市複合庁舎1階 文化会館会議室C

出席者：〈委員〉

高橋穰二、家次敬介、有澤 浩、井出紳也、芝野伸策、石川 芳、市村英規、
西村尚之、長谷川一也、泉 正子、鎌田 勲、南部榮一、加藤寿宏（13名）

〈欠席委員〉

尾張敏章、佐藤里津江、桑原啓成（3名）

1.開会（進行：高橋課長）

2.委員長挨拶

- ・開会にあたりご挨拶申し上げます。年度末のお忙しい時節柄、お集まりいただきお礼申し上げます。
- ・今回の審議会は、調査という位置付けで、2つのテーマで行う。一つ目は「森林」をテーマに、森林保全の取り組みや鳥獣対策について、2つ目は「ゼロカーボン」をテーマに、国の動向や他地域の取組状況についてとしている。
- ・せっかくの機会なので、ぜひ積極的に意見交換していただきたい。

3.議事（調査テーマ）

①本市における森林の保全と育成の取り組み及び野生動物との共生と保護活動について

- ・富良野市農林課より以下の資料に基づき説明

【資料】資料1 森林の保全と育成及び野生動物との共生と保護活動について

《質疑・意見》

【南部委員】

- ・アライグマの防除について、法律に基づいて実施しているということだが、もう少し詳しく、こういった手続きを踏んで、誰が許可を受けて実施しているのか確認したい。
- ・もう一点、エゾシカについて、捕獲後に肉利用されているのはどれくらいなのか知りたい。

【事務局】

- ・本市で法律に基づき防除実施計画書を策定し、その後、北海道地方環境事務所及び農林水産省で確認ののち、確認した旨の通知が来る。これにより、アライグマの防除が可能となり、従事する人については講習等を受け、台帳で管理している。
- ・また、エゾシカの肉利用については、前回の審議会でもお話ししたが、令和3年度が33頭（822kg）、令和4年度が63頭（1,576kg）となっている。

【南部委員】

- ・アライグマの防除について、どの法律に基づいて行っているのかはわかったが、計画内容

や国からの確認の通知を見せてもらうことはできるか。

【事務局】

- 公表できるものなので、お見せすることは可能。用意して配布する。

【追加資料】富良野市におけるアライグマ等防除実施計画書及び確認通知

【南部委員】

- この計画を策定するときに獣医師が入って検討しているのか。動物の生死に関係することなので、入れた中で計画づくりをした方がいいのではないか。

【事務局】

- 計画づくりの際に獣医師を入れることを決めとされていないので、今の計画策定の時に入っていない。

【高橋会長】

- 動物の生死を扱うということなので、今後も慎重に検討し実施いただければと思う。

【南部委員】

- カラスについてはどういった方法で捕獲しているのか。街中のゴミステーションにいる個体を捕獲している数なのか。

【事務局】

- 前提として農業被害対策として捕獲しているので街中は対象外。カラスは主に鉄砲での捕獲で牛舎などが主な場所となっている。

【加藤委員】

- 捕獲数について令和5年度に増えているが季節的な大小はあるのか。傾向があるのか知りたい。

【事務局】

- 季節的により、というよりは全体の頭数が増えている。(特にアライグマ)

【加藤委員】

- 知り合いのメロン農家さんから秋口にクマが出没して、被害が出ているという話を聞くがそのあたりはどうか。(行動の期間が長くなっていると感じている。)

【事務局】

- 地球温暖化の影響で暖かくなり、冬眠の期間が短くなっているというのは、(客観的なデータはないが)現場で担当している者として感じているところ。

【家次委員】

- 捕獲について、「ユキウサギ・カラス類・ドバト・キジバト」はなぜ捕獲しているのか。たまたま罠にかかったものなのか。

【事務局】

- 農業被害対策という観点での捕獲となっており、農地を荒らすのを防ぐためにユキウサギを捕獲したり、畜産の牛舎でカラス等の鳥が子牛を突いて被害が出るのを防ぐために捕獲を行っている。

【家次委員】

- ユキウサギの被害とは何か。

【事務局】

- 踏みつけによる被害が大きいのと、地区で言えば東山地区で捕獲が多い。

【高橋会長】

- ハンターの人材確保について、現状はどうか。

【事務局】

- 高齢化は進んでいるが、近年は資格取得する人が増え、総体の人数は増えている状況。

②他市町村におけるゼロカーボン取組事例について

- 富良野市ゼロカーボン推進アドバイザーより以下の資料に基づき説明

【資料】資料2 他市町村におけるゼロカーボン取組事例について

《質疑・意見》

【事務局】

- 補足として、本市の重点対策加速化事業の申請内容のところ、申請は3月15日に提出済みであり、採択結果は4月下旬以降となっている。昨年より本審議会でも議論いただいている脱炭素ロードマップの具現化に向け、市施設への再エネ導入と市民・事業者への導入促進について、この間意見いただいたものを踏まえつつ、計画としてまとめたものである。この事業を活用しながら再エネの導入加速・2050年ゼロカーボンシティに向けた機運を高めていきたい。採択等新たな動きがあれば、その都度お伝えしたい。

【家次委員】

- 富良野市の申請内容について、ここに書かれている導入数は何年計画のものなのか。

【事務局】

- 令和6年度～令和10年度の5か年総体の数字となっている。

【家次委員】

- 市の上乗せ補助はないのか。

【事務局】

- はい。国の補助額に上乗せするというのは考えていないが、国と市の協調補助という形で、例えば補助1/2のものについて、国1/4、市1/4で負担するなど、これにより導入件数を増やすという方向で考えている。

【南部委員】

- ペットボトルについて、ヨーロッパではデポジット制度など、再利用が進んでいると思うが、こういった取り組みは考えられないか。

【事務局】

- こういった動きがあるということは把握しており、ゼロカーボンに向けての一つの方策になると考えている。

【南部委員】

- 太陽光パネルがだいぶ普及してきたが、既存建物の屋根にのせる場合、問題ないのか。また、今後大量に破棄される時期が来ると思うがどう考えているか。

【事務局】

- 重さについては屋根の耐荷重など考慮して設置されている。また、委員おっしゃるとおり大量廃棄の時代は想定されており、現在、官民でリサイクル手法の研究などが進められている。今現在確立された手法というのはお示しできないが、今後、この研究が進むなかでフォーカスされるのは間違いないと考えている。

【南部委員】

- 懸念するのは、居住者がいなくなった後、空き家となり、太陽光パネルとかがそのまま放置されること。そうなると有効活用されずに廃棄物として処理されるのではないか。また、新聞等でも報道されたが釧路方面で大規模な太陽光パネル設置について、規制できずに困っているような話を聞く。本市でもそうならないよう条例等で規制していくことを検討してはどうか。

【事務局】

- 情報というところで、経済産業省が作成している太陽光の廃棄についてのリーフレットがあり、それには廃棄は専門事業者により行い、産業廃棄物として処理することとなっている。また、請け負う事業者は極力リサイクルし、埋め立てるものを少なくすることとなっている。また、規制に関しては、前回審議会でも意見をいただいたが、現在のところは他地域の情報収集を行っていることである。今の本市の条例（景観条例）内容と他地域のものを比較等しながら、不足があれば対応していきたいと考えている。

4. その他

【事務局】

- 令和 6 年度の審議について、富良野市地球温暖化実行計画の見直しがあり、その審議をお願いしたいと思っている。また、ご案内するので参集のほど願います。
- また、今回のように調査したいテーマがあれば事務局まで報告願いたい。

5. 閉会